

世田谷区における中小企業の景況

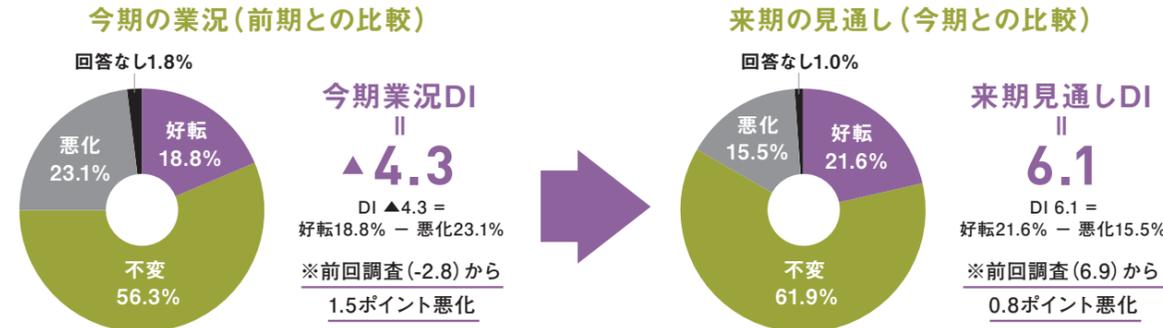
第52回調査実施概要

1.調査時期：平成27年7月1日～7月10日 2.対象期間：平成27年4月～平成27年6月期、及び平成27年7月～平成27年9月期見通し 3.調査対象：東京商工会議所世田谷支部会員中小企業(約2,930社) ①製造業・建設業・運輸業・その他の業種(②～④を除く)…資本金3億円以下、または従業員300人以下

②卸売業…資本金1億円以下、または従業員100人以下 ③小売業…資本金5千万円以下、または従業員50人以下 ④サービス業…資本金5千万円以下、または従業員100人以下 4.調査方法：調査票郵送～郵送・FAXにて回収。世田谷信用金庫・昭和信用金庫に協力依頼。 5.回収状況：合計394社(回収率13.4%) 製造業…55社・不動産業…40社・小売業(飲食業含む)…82社・建設業…79社・卸売業…52社・サービス業…86社

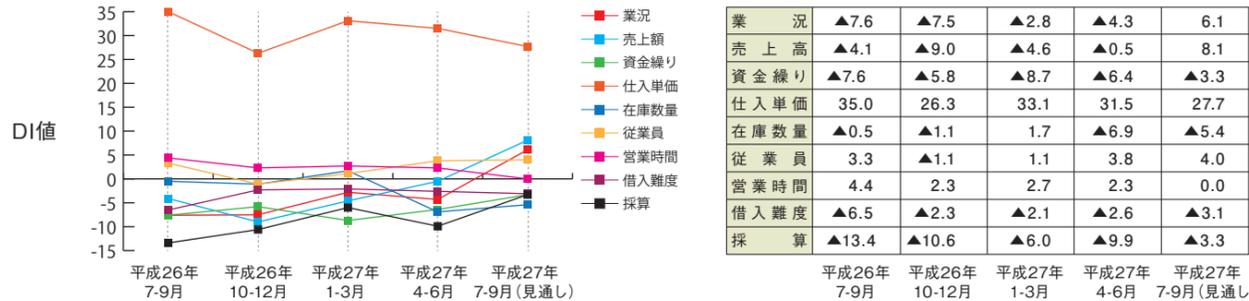
業況

今期(平成27年4月～6月期実績)の業況DIは、▲4.3ポイントで、前期から1.5ポイント悪化した。前回調査まで2期連続、悪化幅が縮小していたがマイナスに転じた。来期の業況見通しDIは、6.1ポイントと、前回調査から0.8ポイント悪化する見通し。



主な指標別の傾向

今期は、売上額▲0.5(前期比+4.1)、資金繰り▲6.4(同+2.3)、従業員3.8(同+2.7)を除く6指標のポイントが減少した。来期見通しは、業況6.1(当期比+10.4)、売上額8.1(同+8.6)など6指標のポイントが増加し、プラスに転じると見込まれるが、借入難度▲3.1(同▲0.5)など3指標のポイントは減少が見込まれている。



主要景況指数表[今期の状況(前期比)]

(注)調査項目：業況(好転⇨悪化)、売上高(増加⇨減少)、資金繰り(好転⇨悪化)、仕入単価(上昇⇨低下)、在庫数量(増加⇨減少)、従業員(増加⇨減少)、営業時間(延長⇨短縮)、借入難度(容易⇨困難)、採算(好転⇨悪化)

	業況	前年同期比	売上高	前年同期比	資金繰り	仕入単価	在庫数量	従業員	営業時間	借入難度	採算
全体	▲4.3	▲8.3	▲0.5	▲4.6	▲6.4	31.5	▲6.9	3.8	2.3	▲2.6	▲9.9
製造業	▲10.9	▲12.8	3.6	▲5.4	▲9.0	30.9	▲5.4	1.8	7.2	1.8	▲12.8
建設業	17.7	12.6	11.4	13.9	18.9	40.5	▲8.8	11.4	1.3	5.0	6.3
不動産業	▲2.5	▲5.0	2.5	▲5.0	▲7.5	17.5	▲5.0	7.5	2.5	2.5	▲7.5
卸売業	▲7.7	▲9.6	5.7	7.7	▲7.7	50.0	▲13.5	▲3.8	2.0	▲1.9	▲13.4
小売業	▲8.5	▲18.3	▲3.6	▲14.6	▲12.2	35.3	▲9.7	0.0	▲3.7	▲2.4	▲8.5
サービス業	▲15.1	▲16.3	▲16.3	▲18.6	▲20.9	15.1	0.0	4.6	5.8	▲15.1	▲23.2

主要景況指数表[来期の見通し(当期比)]

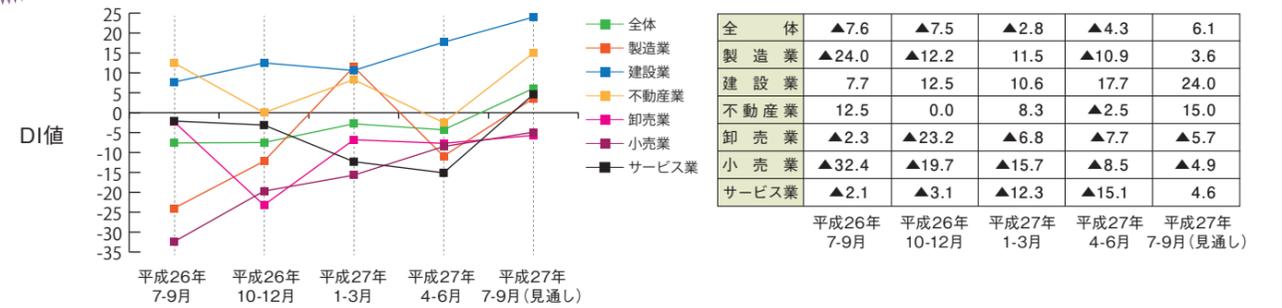
	業況	売上高	資金繰り	仕入単価	在庫数量	従業員	営業時間	借入難度	採算
全体	6.1	8.1	▲3.3	27.7	▲5.4	4.0	0.0	▲3.1	▲3.3
製造業	3.6	7.3	0.0	30.9	▲5.4	0.0	1.9	3.6	▲3.6
建設業	24.0	29.1	10.1	35.4	▲6.3	12.7	3.8	11.4	11.4
不動産業	15.0	20.0	5.0	15.0	▲12.5	5.0	2.5	2.5	5.0
卸売業	▲5.7	▲11.5	▲11.6	36.6	▲15.4	▲2.0	▲7.7	▲5.7	▲17.3
小売業	▲4.9	▲1.2	▲8.6	32.9	▲7.3	3.7	▲6.1	▲9.7	▲10.9
サービス業	4.6	4.6	▲11.7	13.9	7.0	2.3	4.6	▲15.1	▲4.7

概況：<DI(Diffusion Index)とは…> DI(%) = 「良い」「増加」等企業割合 - 「悪い」「減少」等企業割合

DIとは、各設問の項目について、「増加」「好転」したとする企業の割合から、「減少」「悪化」したとする企業の割合を差し引いた値です。したがってDIがプラスを示している場合は、全体として「増加」「好転」したとする企業の割合が多く、景気(またはそれぞれの要素)が上向きの傾向にあることを示します。逆にマイナスを示している場合は、景気が低迷の傾向にあることを示します。

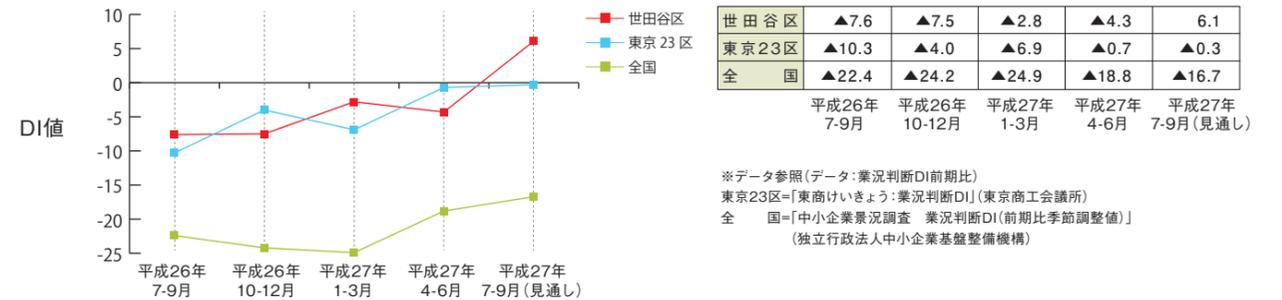
業種別の動向

今期の業種別DIは、「建設業」17.7(前期比+7.1)と「小売業」▲8.5(同+7.2)の2業種で悪化幅の縮小、改善が見られた。来期は、「製造業」3.6(当期比+14.5)、「不動産業」15.0(同+17.5)など全ての業種で悪化幅の縮小、改善する見通し。



東京都・全国との比較

「世田谷区」(▲4.3ポイント、前期比▲1.5)は悪化幅が拡大し、「東京23区」(▲0.7ポイント、同+6.2)、「全国」(▲18.8ポイント、同+6.1)ともに悪化幅が縮小した。来期は、「世田谷区」(6.1ポイント、当期比+10.4)、「東京23区」、「全国」ともに改善する見通し。



※データ参照(データ：業況判断DI前期比)
東京23区=「東商けいきょう：業況判断DI」(東京商工会議所)
全国=「中小企業景況調査 業況判断DI(前期比季節調整値)」(独立行政法人中小企業基盤整備機構)

経営上の問題点

1位「仕入単価、下請単価の上昇」28.2%(前期比+0.3ポイント)は9期連続1位となった。2位「従業員の確保難」23.1%(同+1.2ポイント)が、前回順位3位から上昇した。7位「新規参入者の進出や同業者の増加」16.0%(同+1.8ポイント)は前回順位9位から上昇した。10位「店舗・倉庫の狭隘・老朽化」9.6%(同+2.2ポイント)、11位「生産設備の不足・老朽化」9.1%(同+1.7ポイント)増加し、前回順位12位から上昇した。12位「取引条件の悪化」8.4%(同+0.5ポイント)と回答率は上がったが順位は前回順位10位から下降した。13位「事業資金の借入難」6.1%(同▲1.6ポイント)は前回順位11位から下降した。

順位	項目	回答数	回答率	前回順位	順位	項目	回答数	回答率	前回順位
1	仕入単価、下請単価の上昇	111	28.2%	1	11	生産設備の不足・老朽化	36	9.1%	12
2	購買ニーズの変化への対応	91	23.1%	2	12	取引条件の悪化	33	8.4%	10
2	従業員の確保難	91	23.1%	3	13	事業資金の借入難	24	6.1%	11
4	人件費の増加	84	21.3%	4	14	購買力の他地域への流出	20	5.1%	14
5	需要の停滞	78	19.8%	5	15	その他	17	4.3%	15
6	人件費以外の経費の増加	73	18.5%	6	16	代金回収の悪化	16	4.1%	16
7	新規参入者の進出や同業者の増加	63	16.0%	9	17	金利負担の増加	11	2.8%	17
8	販売単価、製品単価、請負単価の低下・上昇難	62	15.7%	6	18	在庫の過剰	8	2.0%	18
9	大企業(大型店)進出による競争激化	58	14.7%	8	19	在庫の不足	4	1.0%	19
10	店舗・倉庫の狭隘・老朽化	38	9.6%	12	20	生産設備の過剰	0	0.0%	20

※複数回答(3つまで選択)のため、回答率の合計は100%を超える。